

(総合型選抜Ⅱ入試)

令和3年度入学試験問題

小論文

(医学部 保健学科 放射線技術科学専攻)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙1枚と下書き用紙1枚を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 字数は800字以内とする。
7. 解答用紙の指定された欄に、受験番号を記入すること。
8. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
9. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題

新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対応においては、医療従事者（以下「医療者」という。）は自身の身を守りながら診療に従事する必要がある。同様に、放射線診療に従事する医療者は放射線防護策を講じながら業務に当たらなければならない。ウイルスや細菌、放射線や放射性物質といったハザードを扱うことに注目した場合、これからの医療者はどのような姿勢で医療を提供していくべきか。これらのハザードの共通点や相違点を踏まえ、防御・防護の度合いの妥当性も念頭に置きながら、以下のキーワードを全て用いてあなたの考えを述べなさい。

用いたキーワードには全てアンダーラインを付すこと。

なお、キーワードを用いる順序及び回数は任意とする。

キーワード：

安心

増殖

減衰

科学的根拠

信頼

注釈：放射性物質とは、放射線を出す能力（放射能）を持った物質のこと。

ハザードとは、危害要因のこと。

(制限字数：800字)